

感染症の社会史にむけて

2024年 3月 6日 (水)

18:00 – 19:30 (議論が続けば延長)

開催形式：対面とオンライン(Zoom)のハイブリッド

対面会場：東北大学医学部6号館 1階 講堂

星陵キャンパスMAP08 (<http://bit.ly/40GFWp7>)

- 対象：東北大学の教員・学生 / 東北大学外の研究者・学生
パンデミックに関する学際研究に関心のある方 (若手研究者歓迎)
できれば対面会場で討論に参加していただくことを推奨します
- 交流会：対面会場では終了後に簡単な交流会を実施
- 使用言語：日本語
- 登録締切：2024年3月5日(火) 15:00

参加登録

<https://forms.gle/meTCpFFT1Pigw59Y7>



話題提供

イントロダクション

「産業革命・資本主義・帝国主義
—西洋における「他者」の誕生—」
東北大学 経済学研究科
教授 小田中直樹



話題提供 1

「明治期感染症流行時の「患者隠蔽」
—コレラ・赤痢流行報告書を手掛かりに—」
東北大学 東北アジア研究センター
助教 竹原万雄



話題提供 2

「流行性感冒はいかに恐れられたか
—ロシアかぜからスペインかぜまで—」
東北大学 災害科学国際研究所
准教授 川内淳史



概要

感染症は、それが「ヒトとヒトのあいだで感染する」ことからして、社会と密接な関係をもっている。すなわち、両者は、社会のあり方が感染症の発生やイメージに影響を与え、感染症の発生が社会のシステムや人間の集合心性を変えするという相互関係をなす。本セッションでは、欧米社会における感染症の捉え方をめぐるショートトークを導入とし、日本における感染症と社会の関係を具体的な歴史的事例をもとに論じる2本のトークを提供することを通じて、先に述べた相互関係や、さらには感染症の諸相をめぐる日本と欧米の異同に接近してみたい。